



2

【巻頭言】

AI時代を生き抜く「人間力」：
問いを立て、意味を与える力
聖カタリナ大学
聖カタリナ大学短期大学部
学長 坂原 明



3

【ひろばの風】

現代人間学科 設置から1年
—新たな時代の知性に
むかって—
健康社会学部 現代人間学科長
田村 周一

4

【Campus News】

- ・保育学科教授 大上紋子氏が令和7年度生涯スポーツ功労者表彰(文部科学大臣表彰)を受賞
- ・聖カタリナ大学警察ボランティア松山空港で活動
- ・「第8回スポーツ・レクリエーションフェスティバルin風早」を開催



5

【Campus News】

- ・「ハンドベルの集い2025」に参加
- ・本学留学生5名が愛媛の3大学留学生で行く「しまなみ」バスツアーに参加
- ・「コンソーシアムえひめインターナショナル」の研修報告会を開催



カタリナ ひろば

Vol.38
2026.2

聖カタリナ大学
聖カタリナ大学短期大学部
www.catherine.ac.jp

6-7

【Campus News】

- ・本学留学生 湯築小学校児童との友好交流事業に参加
- ・聖カタリナ大学と修静高級中學が教育に関する連携協定を締結
- ・第4回 鍵盤楽器コンサートを開催

【ご寄付のお願い】
教育振興募金のご案内



8

【ようこそ就職課へ】

就職課長補佐 蔵前 純二

9

【ESSAY】

海外に飛び出して未知の扉を開けてみよう！
聖カタリナ大学看護学科 寺尾 奈歩子

10

【ゼミナールインタビュー】

健康社会学部 現代人間学科
時岡 拓磨ゼミ



11

【クラブ紹介】

Disaster prevention ～命を繋ぐ～
(防災サークル)

【教員著書紹介】

『特別支援教育と障害児の保育・福祉』
遠藤 文子
(聖カタリナ大学短期大学部保育学科教授・
ミネルヴァ書房)



特別支援教育と
障害児の保育・福祉

AI時代を生き抜く「人間力」： 問いを立て、意味を与える力

聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部 学長 坂原 明



はじめに：転換期を迎えた社会

私たちは今、社会の構造を根底から変える「AI革命」という未曾有の転換期に立たされています。生成AIをはじめとする技術の進化は目覚ましく、これまで人間だけが担ってきた仕事の多くが、AIやロボットによって代替される可能性を秘めています。このような現実を前に、これからの時代を生きる人々にとって、「何を学び、どう働くか」という問いは、極めて重要です。本稿では、AI時代を単なる「脅威」ではなく「機会」と捉え、この時代だからこそ真に価値を持つ「人間力」について考えてみたいと思います。

AIが変える「知の価値」と教育の役割

AIが出現する以前の社会では、知識を豊富に持っていることや、それに素早くアクセスできることに価値がありました。しかし、AIは人間よりも速く、広く、正確に大量の知識（情報やデータ）にアクセスし、提供することが可能です。このAIの台頭によって、「知識そのものの価値」は一変し、相対化されました。では、これまで知識の獲得に主要な価値を置いていた教育の役割は、これからどのようなものへと変化していくのでしょうか。

世界の主要機関は、「知識の量」よりも「質」を重視し始めています。例えば、経済協力開発機構（OECD）が提唱する「OECD Education 2030」では、未来の予測不能な課題を解決するために、「エージェンシー（主体的に行動する力）」を中核とし、新しい価値を創造する力を育むことが今後の教育の柱であると強調しています。そして、新しい価値を創造するために、私たち人間に求められるのは、AIにはない二つの力、すなわち「問いを立てる力」と「意味を与える力」です。

1. 問いを立てる力

「問いを立てる力」とは、既存の枠組みにとらわれず、誰も気づかなかった本質的な課題を発見し、「なぜ」「もし～ならばどうなるか」と問う、批判的思考力と根源的な好奇心です。

AIは与えられたタスクをこなすのは得意ですが、「そもそも何が問題なのか」「次に何をすべきか」という本質的な問いを立てることはできません。それは、AIには人間のような好奇心や目的意識がないからです。

人間が「なぜ空は青いのだろう？」と問うのは、世界に対する探求心があるからですが、AIは指示がなければ自発的に問いを立てることはありません。価値を生み出す問いを立てるためには、既存の状況を疑い、真のニーズを見つけ出す力、そしてAIに最適なインプットを与えるための深い洞察力、いわゆる「プロンプトリテラシー」が必要となります。人がAIを上手に使いこなすためには、このリテラシーを磨くことが何よりも重要です。

2. 意味を与える力

AIが生み出す情報に「意味を与える力」とは、AIが処理・生成した大量のデータやアウトプットを、人間の価値観、倫理観、そして最終目的と結びつけ、具体的な行動や意義へと昇華させることです。人は、AIの分析結果を基に、「私たちはこの情報を元に何をを目指すのか」という未来のビジョンや行動の意義を定義する必要があります。また、AIの提案が「効率的」であったとしても、それが人間の倫理観や公共心に照らして「正しい」ものであるかは、人間が評価し、意味づけを行わなければなりません。教育現場は、単にAIツールの使い方を教えるのではなく、これらの「問いを立てる力」と「意味を与える力」を涵養する場として、これからの時代をリードする若者を育てていくことが今期待されています。

おわりに

AIの性能がどれほど優れていても、それを扱う人間の力なしには、社会的な価値は生まれません。AIはあくまでツールであり、目的設定と最終判断を下すのは人間です。また、AI技術の利用拡大は、バイアス、プライバシー、社会的な公正さといった新たな倫理的課題を生み出しています。何が正しく、何が社会全体の幸福に繋がるのかを深く考え、行動に責任を持つ力は、AI時代を生きる私たちに不可欠な力といえるでしょう。言葉を換えれば、AIは私たちの仕事を奪うのではなく、私たちを「より人間的な活動」へと解放してくれる可能性を秘めています。大切なのは、AIを道具として使いこなす、人間としての固有の能力、すなわち「人間力」を磨き続けることです。本学は、学生の皆さんが、この転換期を「自分自身の価値を最大化する最高の機会」と捉え、力強く歩みを進めることを心より期待しております。

現代人間学科 設置から1年 —新たな時代の知性にむかって—

健康社会学部 現代人間学科長 田村 周一

この世界は好都合に未完成
だから知りたいんだ

これは2024年秋から放映されたアニメ『ち。—地球の運動について—』（原作：魚豊）のオープニング曲、『怪獣』（作詞：山口一郎、作曲：サカナクション）の詞の一節です。

アニメ『ち。』の舞台は中世から近世にかけてのヨーロッパという設定で、そこで描かれるのは天文学（なかでも天動説から地動説へのパラダイムシフト）をめぐる人間ドラマです。ここでストーリーの詳細にたちいることは控えますが、物語全体に通底するテーマは、私たち人間のなかにある未知なるものへの旺盛な好奇心、真理を追い求める飽くなき探究心、つまり人間の知性であり、そしてその知性をもたらす無限の可能性です。

主題歌であるサカナクションの『怪獣』は、アニメ本編のテーマ・雰囲気にとってもよくマッチしていると評判です。冒頭の一節のとおり、人間はこの世界のメカニズムや問題のすべてを解明・解決するに至っていません。世の中は、科学技術が進歩した今日においてもなお、未知のもの、未解決な問題であふれています。そうした点で「未完成」と言えます。しかしネガティブな意味ばかりではありません。人間の知性にとって、まだ見ぬ世界がどこまでも広がっているのだと前向きに捉えることもできます。この世が、私たち人間も含めて、未完成であるからこそ、知性は前進しつづけられるのです。

知性の営みを考えるとき、大学というのは、まさに社会における「知の拠点」です。普遍的な真理の探究、新たな価値の創出、未来を担う次世代の人材の養成、時代ごとに要請される問題解決。その長きにわたる営為が大学には集積されています。それらが高等教育研究機関の使命であるからです。

中央教育審議会「我が国の「知の総和」向上の未来像～高等教育システムの再構築～（答申）」（2025年2月）にも同様のことが記されています。そこでは「知の総和」という表現がもちいられています。高等教育が目指す姿として、社会における「知の総和」を向上させる中心的な役割を果たし続けること、そうした姿勢が持続可能な活力ある社会を実現するにあたって不可欠であることが述べられています。

聖カタリナ大学では、2025年4月に、それまでの「人間健康福祉学部」を「健康社会学部」へと名称変更すると

ともに、「現代人間学科」を新たに設置しました。開設して1年を迎えます。この新学科は、「社会福祉学科」と「人間社会学科」の2学科を発展的に融合したもので、現代社会のニーズにあった学修内容を提供することにより、社会で活躍できる実践的な人材の養成を目指しています。これからの社会の未来像をみすえつつ、新たな時代の「知の拠点」としての役割を果たし、地域社会に貢献してまいりたいと考えています。

あらためて現代人間学科の特色をご紹介したいと思います。大きくわけて次の2点、「3コース制による幅広い学び」、そして「高度な専門性」に整理できます。

まず第1の「3コース制による幅広い学び」についてです。現代人間学科には、「社会・データコース」、「心理・メンタルヘルスコース」、「ソーシャルワーク（社会福祉）コース」という3つのコースがあります。それぞれ、「社会学・データサイエンス」、「心理学」、「社会福祉学」をベースとしており、各人のニーズにあわせて幅広い学問領域を横断的に学ぶことができます。

第2が「高度な専門性」です。とくに2年次以降、コース選択にあわせて、各分野の高度な専門的知識・技能を学び、資格の取得を目指します。「社会調査士」、「データサイエンス・AI実務パスポート」、「認定心理士」、「公認心理師（大学における必要な科目）」、「社会福祉士」など、多彩な資格の取得を目指すことができます。いずれも現代社会で求められる高度な専門知識・スキルを修得したことを証明するもので、みずからのキャリアを切り拓く強みとなります。

現代社会においては、将来を見通すことが容易ではなくなっていると言われています。気候変動、資源・エネルギーの確保、人口の増減、少子化・高齢化、人材不足、AIに代表される先端技術の利活用、それにとまらぬリスクなど、社会を取り巻く環境は変化し続けています。解決すべき課題は山積しています。ひとつ課題を解決できたとしても、それによって、また新たな問題・課題に行き当たるといった具合です。

それを思うと、社会というのは、「未完成」が本来の姿なのかもしれません。ただし、上でも申し上げたように、ここでの「未完成」は悲観や諦めを意味しません。知性が前進しつづけることで、いまは見えない地平の先を、少しずつでも見通せるようになるはずだと、そう思うのです。

Campus News

保育学科教授 大上紋子氏が令和7年度生涯スポーツ功労者表彰(文部科学大臣表彰)を受賞

10月16日(木)、中央合同庁舎にて令和7年度生涯スポーツ功労者表彰式が開催され、保育学科の大上紋子教授が、スポーツ庁より「生涯スポーツ功労者」として表彰されました。
 ※「生涯スポーツ功労者」…地域または職域におけるスポーツの健全な普及と発展に貢献し、地域におけるスポーツの振興に顕著な成果をあげたスポーツ関係者およびスポーツ団体を、文部科学大臣が表彰する。



聖カタリナ大学警察ボランティア 松山空港で活動

10月10日(金)、聖カタリナ大学警察ボランティアの学生が、松山空港にて特殊詐欺被害防止の啓発活動を行いました。

今回の活動は、10月11日(土)から10月20日(月)まで実施される全国地域安全運動の先駆けとして行われたものです。

当日は、警察や地域の方々に加え、愛媛県のイメージアップキャラクター「みきゃん」と愛媛県警察のマスコットキャラクター「まもるくん」も参加し、空港を訪れた多くの方々に特殊詐欺の被害防止を呼びかけました。



留学生と寮生がアイスクリームで交流！ — 国際交流委員会イベントの実施 —

10月22日(水)、国際交流委員会主催の留学生交流イベントとして「アイスクリーム・パーティー」を実施しました。

当日は、留学生・聴講生といずれみ寮の日本人学生が参加しました。

留学生と聴講生は、本学国際提携校である台湾・静修高級中学の卒業生です。秋になっても暑い毎日でしたが、この日はあいにく小雨で肌寒い日となりました。しかし、みんなで学食売店のアイスクリームを味わい、日本語と中国語で「アイス」をテーマにしたポスターづくりにも取り組みました。

留学生の日本語能力試験対策講座の指導を担当してくださっている菅野先生にもご参加いただき、学生たちはリラックスした雰囲気の中で交流と学びを深め、イベント後は再び勉学に励んでいました。



「第8回スポーツ・レクリエーションフェスティバルin風早」を開催

11月1日(土)、第8回スポーツ・レクリエーションフェスティバルin風早(主催:松山市文化・スポーツ振興財団、聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部)が北条スポーツセンターにて開催されました。このイベントは、松山市文化・スポーツ振興財団との連携協定の一環として毎年開催されるスポーツフェスティバルです。

当日は、体育館にて親子レクリエーション大会、キッズコーディネーション教室、体力・運動測定コーナー、体組成測定コーナー、そしてファミリーフィットネス(ピラティス、ヨガ、自力整体など)が行われました。なお、グラウンドゴルフ大会は



雨天のため中止となりました。

親子レクリエーション大会（種目：はさんで、すくってお引越し・GOGOヤカーリング・スローイングお手玉・カップラーメン積み）では、保育学科の学生が企画・運営に携わり、イベントの運営を支えました。学生にとっては、授業で学んだ内容を実践に活かす良い機会となり、レクリエーション・インストラクター資格取得に向けた役割を学ぶ場ともなりました。

また、キッズコーディネーション教室や体力・運動測定コーナー、体組成測定コーナーでは、健康スポーツ学科の教員や学生が健康に関する助言を行い、参加者の皆さまに健康管理や自身の体力について理解を深めていただきました。

「ハンドベルの集い2025」に参加

11月8日（土）松前総合文化センターにて開催された「ハンドベルの集い2025」に本学の「ハンドベルリンガーズ（部）」が出演しました。

今回、初開催のイベントで、ハンドベルに携わる6つの団体が集まり、それぞれの演奏を披露する、特別な機会でした。普段、同じ舞台に立つことのない方々との共演はとても刺激的で、ハンドベルの持つ魅力を改めて実感することができました。



本学留学生5名が愛媛の3大学留学生で行く「しまなみ」バスツアーに参加

11月16日（日）に、愛媛の3大学の留学生（愛媛大学、松山大学、聖カタリナ大学）で行くバスツアーに参加しました。

さいさいきて屋と来島海峡サービスエリアでは今治の名産を楽しみ、村上海賊ミュージアムでは村上海賊の歴史を学びました。当日は天気も良く、亀老山展望台からしまなみ海道の景色を眺めながら、他大学の留学生達と交流することができました。



「コンソーシアムえひめインターンシップ」の研修報告会を開催

11月10日（月）、人間社会学科の3年生が「コンソーシアムえひめインターンシップ」の研修報告会を行いました。

夏期に研修に参加したおよそ20名が2教室に分かれて報告を行い、事業所の方々にもご臨席賜りました。本報告会は、コンソーシアムえひめインターンシップに関する授業の一環として、毎年開催しております。

学生はあらかじめ事業所からいただいた研修評価をもとに、自己の研修を振り返り、長所や課題、今後の活動目標を検討して報告の準備を行いました。研修報告会は、様々な事業所についての情報共有・業界研究会も兼ねており、各自、真剣にメモを取りながら聞いていました。自発的な質疑応答もなされ、就職活動に備えて大変よい学びの機会となりました。



大学祭にてチャリティーフリーマーケットを実施（学生ボランティアセンター×北条高校生徒会）

学生ボランティアセンターは、大学祭（10月26日）にてチャリティーフリーマーケットを実施しました。

昨年度に引き続き、愛媛県立北条高等学校生徒会と協力して販売活動に取り組みました。フリーマーケットの売上8,185円は、北条地区共同募金会および社会福祉法人松山市社会福祉協議会松山市まごころ銀行に全額寄付いたしました。



本学留学生 湯築小学校児童との友好交流事業に参加

11月26日（水）、「台北市との小中学校友好交流推進員」を務める人間社会学科3年の台湾人留学生 リー・ハンチャンさんと健康スポーツ学科2年のリン・ロンジャさんが、松山市立湯築小学校の6年生を対象に台湾に関するプレゼンテーションを行いました。

プレゼンテーションの内容は、台湾の小学校の紹介、観光地や名物の説明、および台湾で人気の日本のアニメに関するクイズでした。また、簡単な中国語レッスンも実施しました。

交流会では、6年生の皆さんから道後温泉や愛媛の柑橘について教わり、盆踊り（BONダンス）の披露や日本の曲の演奏を聴くことができました。



聖カタリナ大学と静修高級中學が教育に関する連携協定を締結

12月12日（金）、聖カタリナ大学は、台湾の静修高級中學（「高級中學」は日本の高校にあたります）と教育に関する連携協定を締結しました。本協定は、両校が共通のカトリックの精神に基づく教育理念を共有していることを基盤とし、今後の教育活動の連携をより一層深めることを目的としています。

静修高級中學で執り行われた締結式には、両校の関係者が出席し、本学の坂原明学長と静修高級中學の蔡英華校長が協定書への署名を行いました。本協定により、両校は教職員や学生・生徒の交流をはじめ、幅広い教育分野で協力関係を築いていきます。本学は、これらの取り組みを通して、静修高級中學の生徒の皆さんの進路意識や学びへの意欲の向上の支援を図ります。

今後は、カトリックの理念を共有する両校の特色を活かしながら、連携をさらに発展させていきます。



2025年度 松山義士祭の義士行列に参加

12月14日（日）、看護学科の学生11名・教員1名が松山義士祭に参加しました。松山義士祭は、赤穂浪士討ち入りの12月14日（日）に開催される松山の師走を彩る伝統的な行事です。松山市駅キャンパス近隣の興聖寺を中心に行われ、義士に扮した参加者が末広町通りから市駅前までをパレードします。

本学看護学科からの参加は今年で3年目となり、継続的な参加を通じて、地域の皆さまから温かいお声がけをいただく場面も増え、大学と地域との相互交流が深まっていることを実感しています。

介護予防教室をはじめ寄付講座、大学祭など本学が開催したイベントへ本年度も多数の地域の方々にご参加いただきました。

看護学部では、このような地域行事や大学行事への継続的な取り組みを通して、地域の一員として学び関わる機会を大切に、今後も地域とともに歩みながら、学生が学びを地域へ還元できる関係づくりを進めてまいります。



クリスマスイルミネーションの点灯について

冬の風物詩、聖カタリナ大学のイルミネーション。

12月1日（月）より、北条キャンパスと松山市駅キャンパスにて、幻想的なクリスマスイルミネーションの点灯を開始。キャンパス全体が、カトリック大学らしい温かみのある光に



生まれ、まるで夢の世界のような光景が広がりました。

日没後には、学生だけでなく地域の皆さまやご家族も楽しむ、インスタ映え間違いなしの絶好のフォトスポットとなりました。

第4回 鍵盤楽器コンサートを開催

12月21日（日）、子どもたちに文化・芸術への関心を広げてもらおうと、地域の小中学生を対象に本学短期大学部の音楽ホールにて「鍵盤楽器コンサート」を開催しました。このイベントは（公財）松山市文化・スポーツ振興財団との連携協力協定に基づき開催しています。

4回目となる今回は、本学保育学科の非常勤講師 大澤宣晃氏が楽曲の説明に加え、パイプオルガンの仕組みを解説しながら演奏しました。

後半は、本学の教職員、学生のサポートで様々な楽器の体験を行いました。最後に、会場の皆さんで、パイプオルガンの伴奏によるクリスマスソングを一緒に歌い、楽しい雰囲気の中、演奏会を終えることができました。

今後もこのような活動を通して、地域に貢献していきたいと思えます。



聖カタリナ大学及び聖カタリナ大学短期大学部の次期学長の選任について

12月19日（金）に開催された学校法人聖カタリナ学園理事会において、任期満了に伴う聖カタリナ大学及び聖カタリナ大学短期大学部の次期学長に、坂原 明（さかはら あきら68歳：現 聖カタリナ大学及び聖カタリナ大学短期大学部 学長／看護学部教授）を再任することが決定いたしました。

任期は2026年4月1日～2029年3月31日までの3年間です。（2期目）



聖カタリナ大学 看護学部長選挙について

聖カタリナ大学においては、現学部長 西田 佳世 教授の任期満了（2026年3月31日）にともない、次期学部長選挙を12月10日（水）に行い、西田 佳世 教授が選出されました。

任期は、2026年4月1日～2028年3月31日までの2年間です。



ご寄付のお願い【教育振興募金のご案内】

学校法人聖カタリナ学園は、2025年に創立100周年を迎えました。

聖カタリナ学園では聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部の教育事業を永続的に発展させるため、また、教育環境の維持、充実を図るための支援として、皆様からの募金のご支援を受け付けております。趣旨をご理解いただき、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

【お問い合わせ・お申し込み先】

学校法人聖カタリナ学園 法人本部事務局 〒799-2496 愛媛県松山市北条660番地
TEL 089-993-1300 FAX 089-992-5616



就職課では、愛媛県内企業と学生をつなげる実践的な就職支援を積極的に行っています。昨年度に続き、今回も企業見学と観光体験を組み合わせた「産業観光ツーリズム」を実施しました。この企画を通じて、学生たちは地元企業で働く魅力や地域の特色に直接触れ、その魅力を体感することができました。本ページでは、この取り組みの様子を紹介するとともに、後半では地元企業の採用担当者や卒業生からのメッセージをお届けする「会社訪問 採用担当者&卒業生メッセージ」を掲載しています。

■産業観光ツーリズム in 四国中央市

産業観光ツーリズムは、「ものづくり×観光」という新たな視点で、学生と地元企業をつなぐ就職支援の取り組みです。9月17日（水）に四国中央市を訪問し、大学3年生4名が参加しました。ツアーでは、地元企業の職場見学や観光体験を通して、地域産業や資源への理解を深めました。

訪問先は、軽包装資材を主力とする福助工業株式会社と、エリエールで知られる大王製紙株式会社の県内を代表する2社です。最初に訪れた福助工業株式会社では、企業紹介と工場見学の後、営業職や事務職として働く若手社員との交流会が行われ、仕事のやりがいやキャリアについて話を聞くことができました。続いて訪れた大王製紙株式会社では、最新設備を備えた工場を見学し、製紙業の現場や企業の取り組みについて学びを深めました。

また、観光体験として「道の駅 霧の森」を訪問しました。市職員との昼食後、四国中央市の産業や地域の特徴について説明を受け、きき茶体験や施設見学、霧の森大福の試食などを通じて、地域の魅力を体感しました。

学生からは「自然が豊かで大企業も多く、仕事と暮らしの両面で魅力を感じた」「一日で企業と地域の魅力に触れ、視野が広がった」といった声が寄せられました。市職員の温かな対応により、終始アットホームな雰囲気の中で行われた本ツアーは、学生が将来を考えるうえで貴重な学びの機会となりました。



■会社訪問 採用担当者&卒業生メッセージ

就職課では、地元企業や働くことへの関心を高めてもらうために、採用担当者や卒業生の声を届けていきます。今回は、松山市岩崎町に拠点がある日本赤十字社 愛媛県支部です。4月から組織振興課で働く一谷 綾乃さん（社会福祉学科2024年度卒業）にもお話を伺いました。

日本赤十字社 愛媛県支部

赤十字は、「人間のいのちと健康、尊厳を守る」という使命を掲げる人道支援組織です。関連施設の松山赤十字病院、愛媛県赤十字血液センターやボランティアなどと共に、苦しむ人を一人でも多く救えるよう様々な事業を行っています。また、災害時には赤十字の全国的なネットワークを活かして被災された方の支援に取り組んでいます。



【採用担当者メッセージ】

人との関わりを第一に、やさしさや思いやりの心をもって、チームワークを形成しています。各々が「気づき、考え、行動する」ことができるよう意識を持った人材育成に取り組んでいます。日々、笑顔で元気よく、私たちとともに未来の赤十字を担ってくれる方のエントリーをお待ちしています。



【卒業生コメント】

現在、私は県内で活動されている赤十字ボランティアの方々を支える業務に携わっています。様々な方と関わりながら、課題に向き合い、活動がより円滑に進むよう調整や支援を行っています。業務を行う中で、ボランティアの方から「あなたがいてくれると心強い」と声をかけていただいたことが強く印象に残っており、地域の力を支える仕事の意義を改めて感じました。

在学中に培った“相手の立場で考える姿勢”や“状況に応じて柔軟に対応する力”などは、現在の仕事の大きな基盤になっています。

就職活動で迷っている皆さんは、ぜひ企業説明会に参加してみてください。悩むことや不安になることもあると思いますが、多くの経験や新しい出会いを通して視野を広げると、自分らしいキャリアの形が少しずつ見えてくると思います！

海外に飛び出して未知の扉を開けてみよう！

聖カタリナ大学看護学科 寺尾 奈歩子

私は、看護学部看護学科の寺尾奈歩子と申します。専門は成人看護学ですが、海外留学や海外の医療施設の視察経験があることから、国際看護学も担当しています。

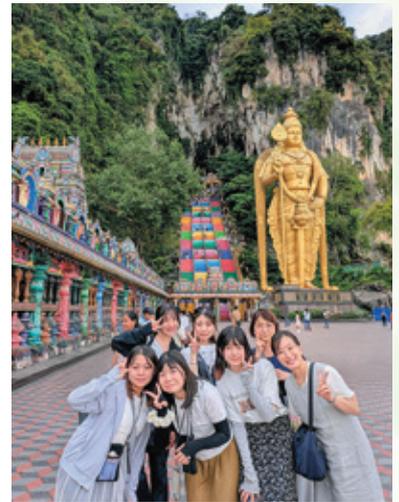
看護学科は、世界で活躍できる看護職を育てるために国際的な視点での教育も大切にしており、「国際看護学」と「国際看護学演習」という2科目を開講しています。2020年にマレーシアにあるMASHA大学と協力関係を締結しました。新型コロナウイルスのパンデミックの際はオンラインで交流を続け、2024年によく現地での海外研修を実現することができました。この研修は14日間にわたり、病院・クリニック・高齢者施設・児童養護施設の見学、MASHA大学のシミュレーションセンターの視察、学生との交流、市内視察など、盛りだくさんの内容でした。

参加した学生のほとんどが、初めての海外渡航！生まれて初めて飛行機に乗るという学生も数名。パスポートの申請からはじまり、自分の名前をローマ字でパスポートにどう書くか調べるところから「未知の扉」を開き初めました。そして、国際線の飛行機に乗った瞬間から、英語のシャワーを浴びるという未知の扉が強制的に開き、いよいよ挑戦のスタートです。出発前の学生たちは、「Hello」と「Thank you」がやっとと言える程度の英語力。それでも翻訳アプリやジェスチャーを使いながら一生懸命英語で伝えようとする姿が見られました。私はその様子を微笑ましく感じながら、「文法が多少間違っても伝われば問題ない」と叱咤激励し続けました。すると学生たちは恥ずかしさや緊張感を乗り越えて次第に積極的になり、研修が終了する頃には英語の聞き取りも上達し、MASHA大学の学生と“恋バナ”で盛り上がるまでになりました！帰国後にはアルバイト先や実習先でも積極的に人に関わるできるようになり、大きく成長しました。

もう一つ大きな学びは「多様性」です。マレーシアは多民族・多宗教国家で、マレー系・中国系・インド系など、様々なルーツを持つ人々が共存し、信仰する宗教もさまざまです。学生たちはこの環境の中で、「自分と違う考え方を持つ人を尊重する姿勢」がいかに大切かを肌で感じていました。また、現地での食事「未知の扉」のひとつでした。マレーシア料理はスパイシーなものが多く、日本の食事とは見た目も味付けも大きく異なります。施設や大学でおもてなしを受ける際には「日本人は辛いものが苦手だから辛くないようにしたよ」と配慮してくださったのですが、それでも辛くて食べられない学生がいました。その経験を通

じて、「無理して食べる」のではなく「食べられない」と正直に伝えられるようになりました。それをきっかけに、自己主張できるようになったと嬉しそうに話す学生もいました。もちろん、病院や高齢者施設の見学からも多くの学びがありました。マレーシアには日本のような公的医療保険や介護保険制度がなく、病院によって受ける医療や診察代に大きな差があります。学生たちは病院によって全く違う病室のクオリティや設備に衝撃を受け、その背景にある社会的格差や制度の仕組みを理解することで、「もっと国際的な視点から看護を学びたい」という探究心を強めていきました。

スーツケースの暗証番号が分からなくなって開けなくなった、タクシーや送迎バスにスマートフォンを忘れた、現地地で体調を崩し病院を受診したなど、大小様々なハプニングはありましたが、海外研修によって学生が獲得した力は、現地に身を置いて実際に経験を積み重ねたからこそ獲得できたと確信しています。海外に飛び出して未知の扉を開くことは、最初は不安や緊張が伴います。しかし、その一歩は必ず自分の力となって返ってきます。ぜひ、多くの学生に海外研修に挑戦していただきたいと願っています。



観光名所のバトゥ洞窟

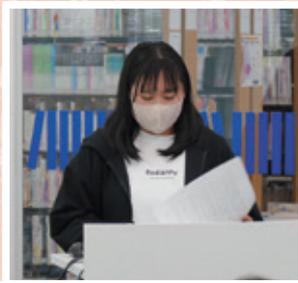


本学学生とMASHA大学学生

ゼミナールインタビュー

ゼミのテーマを教えてください。

本ゼミでは、「いのちの尊厳」をテーマとして、生命倫理学と宗教学から学びを深めています。具体的には、医療技術の発達をもたらしている人の生命を取り巻く様々な倫理的問題、カトリック教会の教え、隣人愛の実践、福音的な生き方の模範となる聖人の生き方などについてゼミで理解を深め、共に考えています。そして、そこから湧いてきた各自の興味・関心のあるテーマに沿って必要な文献やデータを調べ研究しています。ゼミ生の研究対象は、宗教が一因となる国家間の複雑な問題、様々な視点から見た死生観、イスラームのジハード、聖地、生命の尊厳など、私たちの生活や社会と深く関わっている宗教や生命倫理を通して見出されたものであり、多岐にわたっています。



時岡 拓磨ゼミは **こんなゼミ**

時岡ゼミでは、宗教の多様な側面を学びつつ多様な研究をしています。実際には、宗教的視点から見た死生観やイスラームのジハード、ムスリムの聖地巡礼について調べたり、宗教の聖地から着想を得て漫画の聖地を研究したり、さらに、今行われているロシアのウクライナへの軍事侵攻の背景にある宗教の関与など幅広く研究をしています。そして、このゼミでは、各自が卒業研究をしたい内容を3年生の前学期中に決め、各自で卒業研究に関連した論文などを調べてまとめ、授業中に発表を行い質疑応答することを3年生の間では繰り返し、4年生になったら今調べている卒業研究を、もっと詳しく調べてまとめていき卒業研究発表会に向けて準備を進めていきます。

人間社会学科4年 岡本 貴祐さん

健康社会学部 現代人間学科 時岡 拓磨ゼミ

ゼミの特徴を教えてください。

ゼミ生たちは、「キリスト教学」や「宗教学概論」を履修してきた学生で、キリスト教の教え、様々な宗教現象、人々の死生観や価値観に大きな影響を与えている宗教、聖地巡礼、生命倫理などに興味・関心をもってゼミに所属しています。ゼミでは、「生命倫理」「宗教」という観点から私たちの生きる社会を見つめ、そこから人間の本質理解を深めています。ゼミ生たちは、やる気に満ちて研究に取り組んでいます。各々が研究したいテーマを早い段階から見出ししており、積極的に研究を深めています。

また、私自身は本学に着任して最初の入学式後、構内を歩いていると新入生と間違われ背後からポンポンと肩を叩かれ、学生からサッカー部に勧誘されたこともあり、ゼミではお兄さんの存在なのか、ゼミが終わってからでもゼミ生たちと友だちのように研究とは関係のない話もよくします。時には就活の話もしますが、ゼミ生たちは就活に対しても積極的な姿勢を見せており、将来についてはきちんと見据えていると思います。

ゼミのスタイルを教えてください。

各自が興味・関心のあるテーマについて必要な情報を収集し、研究してきたことをレジュメにまとめ、担当日に発表します。発表後は質疑応答をすることにより、次の発表に向けて、より改善された研究内容を発表することができるようにしています。さらに、発表担当日でなくても、「きょう、発表します!」と言って、どんどん飛び入りで挑戦することも勧めています。その場合は、質疑応答がより活発になる傾向があります。

研究は目的を明確にし、その目的に至るまでの計画を立案し、一步一步着実に前に進まなければなりません。時として壁にぶつかることもあります。そのような場合、ゼミ生同士で質疑応答を繰り返すうちに、新たな視点に気づいたり方向性が見出されたりするので切磋琢磨しながら、より素晴らしい研究に発展させてほしいと思っています。そして、社会に出てからも、「いのちの尊厳」についてゼミで学んだことを通していのちを大切に、他者を思いやり、隣人愛を実践できる人であってほしいと願っています。

クラブ紹介

Disaster prevention ～命を繋ぐ～ (防災サークル)

このサークルは、2022年度に現在の看護学科4年生が創設し、2024年度からは私が2代目リーダーとして引き継いでいます。現在1年生から4年生まで計24名が在籍していますが、今は主に1～3年生の9名で、松山市駅キャンパスの053小講義室で不定期に活動しています。活動内容ですが、昨年度は、備蓄食料品の食べ比べや100均の品で防災グッズをつくりました。また、市内の中学校で防災教室を開いたり、大学祭で来場者と一緒に新聞紙で簡易スリッパをつくったりもしました。今年度は新たに1年生2名を迎えて、避難所で使える段ボールベッドを試作しました。光が顔に当たると眩しくて眠りにくいと思い、頭側に屋根をつけてみました。今後はより改良を重ねる予定です。また、自宅から防災バッグを持ち寄って備蓄品の種類についての話し合いも行いました。このようにいろんな活動

を通して、楽しく防災について学んでいます。

松山市は比較的自然災害が少ない地域です。“自分ごと”としてとらえることはなかなか難しいですが、発災時に困らないよう自助力を高めるべく、私たちと一緒に楽しみながら防災について学びませんか？随時メンバーを募集しているのでぜひぜひ興味を持った方は一緒に活動しましょう！



教員著書紹介

『特別支援教育と障害児の保育・福祉』

立花直樹・中村明美・松井剛太・井上和久・川碕美香（編著）
出版社名/ミネルヴァ書房
遠藤文子（聖カタリナ大学短期大学部保育学科教授）



本書は「最新・はじめて学ぶ社会福祉」のシリーズの1冊で、社会福祉士、介護福祉士から保育士等まで、福祉の専門職の養成テキストに活用できる本となっている。本教員は、21章「外国籍の児童や生きづらさをかかえる児童に対する理解と支援」を担当している。

日本では、「特別支援教育」というと障害のある子どもの支援と結びつけることが多い。しかし、1994年開催の「特別なニーズ教育に関する世界会議」で採択された「サラマンカ声明」では、障害のある子どもだけではなく、社会的、情緒的、言語的、民族的等々の条件で就学を阻害されている子どもたちに対する教育機会の不均衡等の克服への広い射程と強い意志が書き込まれている。本章では、日本の社会でマイノリティと判断される外国籍の子どもや、生きづらさをかかえる子どもの現状と具体的な支援の方法について述べている。また、コラムでは、「性の多様性について絵本で考えよう！」と題して福祉や学校現場、家庭等で活用できる絵本の紹介を行っている。

大学
ドローン動画



大学
公式LINE



※LINEのQRコード読み取り画面でスキャンするとLINEの友達に追加されます。

大学公式
Instagram



受験希望
の方



大学HP



保育学科
ブログ



学校法人 聖カタリナ学園

聖カタリナ大学

カタリナひろば vol.38

編集・発行

広報委員会

〒799-2496 愛媛県松山市北条660番地

TEL (089) 993-0702 (代)

kouhou@catherine.ac.jp